



令和4年10月20日

報道関係各位

独立行政法人国立科学博物館

特別展「毒」プレス内覧会取材のご案内

国立科学博物館（館長：篠田 謙一）では、2022年11月1日（火）から2023年2月19日（日）まで、特別展「毒」を開催いたします。

ついては、10月31日（月）13時から特別展「毒」プレス内覧会を開催いたします。ぜひこの機会にご臨席いただき、広報について格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。詳しくは、別添資料をご覧ください。

特別展「毒」プレス内覧会

【日時】2022年10月31日（月）（受付開始 12:30）※事前申込 1媒体2名様まで

13:00~13:30(オープニングトーク)

13:30~15:30(プレス内覧会)

【会場】国立科学博物館 地球館 特別展示室（東京・上野公園）

特別展「毒」

【会期】2022年11月1日（火）から2023年2月19日（日）

【会場】国立科学博物館 地球館 特別展示室（東京・上野公園）

【主催】国立科学博物館、読売新聞社、フジテレビジョン

<本件担当者>

独立行政法人 国立科学博物館 事業推進部 企画展示課（特別展担当）

高橋・泉谷・堀田

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL : 03-3822-0111 FAX : 03-5814-9898

<取材に関するお問い合わせ先>

特別展「毒」広報事務局（株式会社リリオ内）

担当：仁地、川上

TEL : 03-6438-9195 FAX : 03-6438-9196

E-mail : dokuten@lirio.biz

取材のご案内

オフィシャルサポーター伊沢拓司さんも来場！



特別展「毒」プレス内覧会取材のご案内

10月31日(月) 国立科学博物館 (東京・上野公園)

◆12:30～受付開始 ◆13:00～オープニングトーク ◆13:30～内覧会

皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

国立科学博物館(東京・上野公園)は、2022年11月1日(火)から2023年2月19日(日)まで、「毒」をテーマにした特別展を開催いたします。

本展では動物、植物、菌類、そして鉱物や人工毒など、自然界のあらゆるところに存在する毒について、動物学、植物学、地学、人類学、理工学の各研究分野のスペシャリストが徹底的に掘り下げ、国立科学博物館ならではの視点で解説。様々な「毒」世界を探求することにより私たち人間のこれからの未来も考えていく特別展です。

この度、11月1日(火)の開幕に先立ちまして10月31日(月)に報道関係者の皆様をお招きし、プレス内覧会を行うこととなりました。当日は、監修を担当した国立科学博物館の研究者に加えて、オフィシャルサポーターの伊沢拓司さんが来場し、内覧会前にオープニングトークを行う予定です。

報道関係者の皆様におかれましては、ご多用中のところとは存じますが、以下概要をご参照いただき、ご取材・ご来場賜りますようお願い申し上げます。

<特別展「毒」 10月31日(月) プレス内覧会実施概要>

◆日程：2022年10月31日(月)

◆会場：国立科学博物館(東京・上野公園)

所在地：〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

アクセス：JR「上野」駅(公園口)から徒歩5分、東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅(7番出口)から徒歩10分、

京成線「京成上野」駅(正面口)から徒歩10分

※館内に駐車場および駐輪場はございません。

◆受付：国立科学博物館 特別展入口(正面入口SL脇)

◆時間：(予定)

12:30～プレス内覧会受付開始(国立科学博物館 特別展入口)

13:00～13:30 オープニングトーク/フォトセッション

(監修者挨拶・伊沢拓司さん挨拶)

13:30～プレス内覧会

(※監修者による展示説明の時間を予定しております。)

15:30 プレス内覧会 終了・完全退館

◆登壇者：伊沢拓司(オフィシャルサポーター)

監修統括

細矢剛(国立科学博物館 植物研究部長)

監修

中江 雅典(国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹)

吉川 夏彦(国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究員)

井手 竜也(国立科学博物館 動物研究部 陸生無脊椎動物研究グループ 研究員)

田中 伸幸(国立科学博物館 植物研究部 陸上植物研究グループ長)

坂上 和弘(国立科学博物館 人類研究部 人類史研究グループ長)

林 峻(国立科学博物館 理工学研究部 理化学グループ 研究員)



伊沢拓司

(オフィシャルサポーター)

※登壇者は予定

10月31日(月)
国立科学博物館 特別展「毒」
プレス内覧会取材申込書

<取材申込先>
特別展「毒」広報事務局宛
Mail. dokuten@lirio.biz
FAX.03-6438-9196

取材のお申込みに関しましては、本申込書に必要事項をご記入いただき、下記注意事項をご一読の上、
10月28日(金)16:00までに広報事務局までメールもしくはFAXにてお申込みいただけますようお願いいたします。

国立科学博物館 特別展「毒」プレス内覧会

■日 時：2022年10月31日(月)

・12:30～受付開始 ・13:00～オープニングトーク ・13:30～15:30 内覧会

■会 場：国立科学博物館（所在地：〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20）

媒体名／番組名	
御社名	
ご担当者様氏名	
ご連絡先	TEL： FAX：
E-Mail	
撮影	<input type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> ムービー / <input type="checkbox"/> スチール ） / 合計： _____ 台 <input type="checkbox"/> 無
来場予定人数	合計 _____ 名（全参加人数を記入ください）
その他ご連絡欄	

【注意事項】

- ・ご取材は**広報事務局よりご案内をお送りした媒体様で、かつ事前申し込みをいただいた媒体様のみ**とさせていただきます。
 - ・ご参加は**1媒体2名様まで**をお願いいたします。（テレビ撮影など、撮影人数が必要な場合は上記の限りには含みません。）
 - ・本内覧会は**事前申込制（先着順）**となります。ご参加くださる場合には必ず事前にお申込みください。
 - ・お申込み数によっては、期日前であっても締め切らせていただきますのでご容赦ください。
 - ・オープニングトークのカメラ位置は、ムービー・スチールともに先着順となります。オフィシャルスチール・ムービーのカメラ位置を優先させていただきます。
 - ・ムービー用の音声ラインを用意しております。ケーブルはお持ち込みください。
 - ・会場には駐車場、駐輪場のご用意はございません。公共交通機関をご利用ください。
 - ・会場の混雑状況により、ご入場までお待ちいただくことがございます。開始直後の時間帯を避けて、ご来場いただくことをお勧めいたします。
 - ・会場内の撮影は**三脚/脚立/照明の使用は不可**となります。当日配布します「撮影注意事項」をお守りいただきますようお願い申し上げます。
- 詳細が事前に必要な場合は、広報事務局までご連絡ください。
- ・当日、展覧会特設ショップ、音声ガイドをご利用いただけます。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の状況等により、プレス内覧会を中止する場合があります。予めご了承ください。

【ご取材・ご来場の方へのお願い】

- ・ご取材時は、検温、手指の消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保などの感染症対策にご協力いただきますようお願いいたします。
- ・ご来場の際は必ずマスクをご着用ください。
- ・発熱や風邪の症状があるなど、体調の優れない方はご来館をお控えください。
- ・入場時に消毒と非接触型での体温測定をいたします。平熱と比べて高い発熱が確認された方はご入場をお断りする場合があります。

【ご取材いただいた写真・映像の使用に関して】

※本展覧会の告知以外での使用は禁止致します。撮影された写真・映像の二次使用（複写・転載）はできません。

特別展 毒

【開催概要】

- ◆展覧会名：国立科学博物館 特別展「毒」
- ◆会 期：2022年11月1日（火）～2023年2月19日（日）
- ◆会 場：国立科学博物館（東京・上野公園） 所在地：〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20
- ◆開館時間：9時～17時（入場は16時30分まで）
- ◆休館日：月曜日、12月28日（水）～1月1日（日・祝）、1月10日（火）
※ただし1月2日（月・休）、9日（月・祝）、2月13日（月）は開館
※会期等は変更になる場合がございます。※入場方法等の詳細は公式サイトをご確認ください。
- ◆入場料（税込）：一般・大学生：2,000円、小・中・高校生：600円

※未就学児は無料。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。

ご入場の際は、公式サイトより日時指定予約が必要です。当日、博物館で販売する当日券での入場枠も設けておりますが、ご来場時にお待ちいただく場合や、入場枠が完売した際はご入場できません。

※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。※本展を観覧された方は、同日に限り常設展（地球館・日本館）もご覧いただけますが、常設展示の開館時間内に限ります。また、日時指定日の指定時刻の前に常設展示を観覧することはできません。※チケットのキャンセル・券種変更・払い戻し・再発行はいたしません。再入場はできません。※会場内の混雑等により、ご入場をお待ちいただく場合がございます。※土、日曜日、祝日、および会期末はご予約いただけない可能性が高くなりますので、早めのご予約・ご購入をお勧めいたします。※入場時に検温と消毒を実施しています。※入場にはマスクの着用が必要です。

- ◆オフィシャルサポーター：伊沢拓司（クイズプレイヤー）
- ◆音声ガイドナビゲーター：中村悠一（声優）
- ◆クイズラボ：QuizKnock（クイズノック）
- ◆キャラクターラボ：秘密結社 鷹の爪
- ◆タイアップソング：BiSH「UP to ME」
- ◆お問合せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）・03-5814-9898（FAX）
- ◆公式サイト：<https://www.dokuten.jp>
- ◆公式SNS：Twitter／@doku_ten、Instagram／doku_ten
- ◆主催：国立科学博物館、読売新聞社、フジテレビジョン
- ◆協賛：DNP大日本印刷
- ◆協力：海洋研究開発機構、国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、水産無脊椎動物研究所、第一三共、大日本除虫菊、東京都薬用植物園、東京農工大学、東京薬科大学、日本蛇族学術研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、ブリヂストン、星薬科大学、北海道大学植物園・博物館、ポーラ・オルビスホールディングス ポーラ文化研究所、舞鶴引揚記念館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、Meiji Seika ファルマ



特別展「毒」とはー

「毒」は基本的にヒトを含む生物に害を与える物質として理解されています。しかし、毒のなかには単に毒にとどまらず、薬効をもつものもあります。「生物に何らかの作用を与える物質」のうち、人間にプラスに働くものを薬、マイナスに働くものを毒と呼んで、多様で複雑な自然界を理解し、利用するために人間が作り出した概念と考えることができます。人体に有用なものでも、摂りすぎると毒になることがあります。また、アレルギー反応にみられるように、感受性の高低によっても毒性は異なります。

本展では動物、植物、菌類、そして鉱物や人工毒など、自然界のあらゆるところに存在する毒について、動物学、植物学、地学、人類学、理工学の各研究分野のスペシャリストが徹底的に掘り下げ、国立科学博物館ならではの視点で解説していきます。毒をテーマにした特別展は、国立科学博物館では初めての開催となります。

自然界、そして人間の社会にはさまざまな毒が存在します。毒とそれに関わる生物との関係を知ることは、自然界の神秘と驚きに満ちた一面を知ると共に、現代社会を生きるうえで大きな助けとなると考えています。



©Cezary Stanislawski/Shutterstock.com

写真：門田裕一

“チーム毒”が力をあわせて、もっとドクドクドキドキさせます。



伊沢拓司 (クイズプレイヤー)

開成中学校・高等学校、東京大学経済学部卒業。中学時代よりクイズ研究部に所属し、高校時代には全国高等学校クイズ選手権史上初の個人2連覇を達成。2016年に「楽しいから始まる学」をコンセプトに立ち上げたWebメディア「QuizKnock」で編集長を務め、同YouTubeチャンネルの登録者数は190万人を超える。TV出演や講演会などクイズプレイヤーとして幅広く活動中。

メッセージ:「毒」というものは、もちろん自分から摂取したくないものではないにせよ、どこか悪意のある、危ないのに惹かれてしまう魔力がありますよね。今回はそんな毒のことを、楽しく、そして正しく知ることができる展覧会です。毒を通して化学や生物の知識も深まるはず。ぜひ、その好奇心で学びへの扉を開いてください。ちなみに、今回はQuizKnockお手製の刺激的なクイズもあります。毒をくらわば皿までの精神で、こちらもお楽しみください!



クイズコラボ QuizKnock からの挑戦状



クイズ王・伊沢拓司率いる東大発の知識集団QuizKnock【クイズノック】から出題される「毒」クイズに挑戦しながら展覧会を楽しもう!



キャラクターコラボ

「秘密結社 鷹の爪」でおなじみの「鷹の爪団」が展覧会に登場!



「毒」を世界征服に利用しようとする「鷹の爪団」のメンバーが、会場内のあちこちに登場。来場者の皆さんと一緒に「毒」について学びます。



監修者

国立科学博物館の様々な分野の研究者9名が監修
細矢 剛(植物研究部長)、中江 雅典(動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹)、吉川 夏彦(動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究員)、井手 竜也(動物研究部 陸生無脊椎動物研究グループ 研究員)、田中 伸幸(植物研究部 陸上植物研究グループ 長)、保坂 健太郎(植物研究部 菌類・藻類研究グループ 研究主幹)、堤 之恭(地学研究部 鉱物科学研究グループ 研究主幹)、坂上 和弘(人類研究部 人類史研究グループ 長)、林 峻(理工学研究部 理化学グループ 研究員)



タイアップソング



BiSH: アイナ・ジ・エンド、セントチヒロ・チッチ、モモコグミカンパニー、ハシヤスメ・アツコ、リンリン、アユニ・D からなる“楽器を持たないロックバンド”

アイナ・ジ・エンド メッセージ:毒というのは少し怖いけれどだからこそ気になってしまったり、知りたくなったり、ドキドキしたりします。知れば知るほど、面白い存在です。“UP to ME”が特別展「毒」のタイアップソングになったと何ったとき、“UP to ME”は、一見カッコいいサウンドですが、歌詞を読み解けば、等身大でもがく姿が描かれていたりという、知っていくと深く好きになる要素が“毒”と似ているのかな? と思いました。今回の展示では、様々な毒の可能性、見方を紹介するというので、とても楽しみです。BiSHは楽曲で色を添えたいと思っています。



オリジナルグッズ

会場限定オリジナルグッズもゾクゾク登場!

入場料(税込)
一般・大学生:2,000円 小・中・高校生:600円

新型コロナウイルス感染防止のため、本展では各種対策を行うとともに、時間帯ごとに定員を設けております。そのため、ご入場されるお客様は公式サイトより日時指定予約が必要です。当日、博物館で販売する当日券での入場枠も設けておりますが、ご来場時にお待ちいただく場合や、入場枠が完売した際はご入場できません。

※未就学児は無料。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。※本展を観覧された方は、同日に限り常設展(地球館・日本館)もご覧いただけますが、常設展示の開館時間内に限ります。また、日時指定日の指定時刻の前に常設展示を観覧することはできません。※チケットのキャンセル・券種変更・払い戻し・再発行はいたしません。再入場はできません。※会場内の混雑等により、ご入場をお待ちいただく場合がございます。※土、日曜日、祝日、および会期末はご予約いただけない可能性が高くなりますので、早めのご予約・ご購入をお勧めいたします。※入場時に検温と消毒を実施しています。※入場にはマスクの着用が必要です。

展覧会公式サイト <https://www.dokuten.jp>

Twitter @doku_ten Instagram doku_ten

お問合せ:050-5541-8600(ハローダイヤル)、03-5814-9898(FAX)

オクトリカブト= 写真提供: 門田裕一、コアラ= ©Janelle Luggie/Shutterstock.com、コモドオオカゲ= ©Cezary Stanislawski/Shutterstock.com、フリッツ・ハーバーの肖像= ©Science Photo Library amanaimages、ハブ(イラスト)= 画像提供: アップアート、「秘密結社 鷹の爪」イラスト= ©DLE ※「オオマルモンダコ」は映像で紹介。※画像はイメージです。※生体展示はございません。



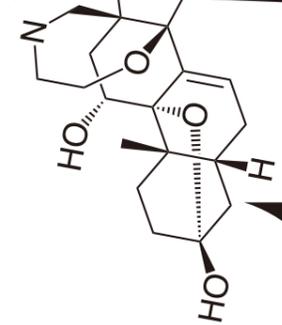
公式サイト

アクセス
国立科学博物館(東京・上野公園)
National Museum of Nature and Science, Tokyo(Ueno Park, Tokyo)
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

- JR「上野」駅(公園口)から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅(7番出口)から徒歩10分
- 京成線「京成上野」駅(正面口)から徒歩10分
- ※敷地内に駐車場および駐輪場はございません



Special Exhibition
POISON
特別展



2022年 11月1日(火) ~ 2023年 2月19日(日)

国立科学博物館(東京・上野公園)
National Museum of Nature and Science, Tokyo(Ueno Park, Tokyo)

開館時間:9時~17時(入場は16時30分まで)
休館日:月曜日、12月28日(水)~1月1日(日・祝)、1月10日(火)※ただし2月(月・休)、9日(月・祝)、2月13日(月)は開館
※会期等は変更になる場合がございます。※入場方法等の詳細は公式サイトをご確認ください。

主催:国立科学博物館、読売新聞社、フジテレビジョン
協賛:DNP大日本印刷
協力:海洋研究開発機構、国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、水産無脊椎動物研究所、第一三共、大日本除虫菊、東京都薬用植物園、東京農工大学、東京薬科大学、日本蛇族学術研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、ブリヂストン、星薬科大学、北海道大学植物園・博物館、ポーラ・オルビスホールディングス、ポーラ文化研究所、舞鶴引揚記念館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、Meiji Seika ファルマ

お問合せ:050-5541-8600(ハローダイヤル)、03-5814-9898(FAX)

国立科学博物館 読売新聞社 フジテレビジョン

コノセカイハ、ドクダラケ。

画像はイメージです

「毒はコワイ・・・」でも、だからこそ興味をそそる！実はこの世界は毒だらけ。

もちろん我々の近くにも・・・。

自然界、そして人間の社会には様々な「毒」が存在します。「毒」とそれに関わる私たち生物との関係を知ることは、自然界の神秘と驚きに満ちた一面を知ると共に、現代社会を生きる私たちのよりよい生活への大きな助けとなるはず。さあ、毒を知る旅にでかけよう。
(特別展「毒」監修統括：細矢 剛)

圧巻の拡大模型

毒をもつ生物たちを巨大模型で間近にご覧いただけます！ハブは約30倍、オオスズメバチは約40倍、イラガは約100倍、セイヨウイラクサは約70倍！（実物比）



第1章

毒の世界へようこそ

私たちの身近な生活の中や、自然界には様々な毒が存在します。本章では毒とは何か、その概念から始まり毒が人間を含む生物にどのように作用するのかについて解説します。



第2章

毒の博物館

私たちのまわりにある様々な毒と、毒をもった生物を紹介します。生物の毒（動物・植物・菌類）の目的の多くは明確です。狩り（捕食）のために使用する毒、自分を守るために存在する毒、様々な有毒生物の毒の働きなどを、剥製などの標本を使って説明します。また、鉱物など無生物に含まれる自然界の毒や、人間が作り出した毒にも迫ります。

毒と進化

毒の存在は、生物の進化の要因ともなってきました。毒のある生物への擬態や、毒に耐える性質の獲得、毒を利用した種子の散布など、毒が招いた多様性と進化の例を紹介し、毒と生物の進化の関係を考えます。

コアラVSユーカリ?!

コアラは、食物とするユーカリの葉の毒性を味や匂いで敏感に感じ取り、毒性の少ない葉を選別する。



キオビヤドクガエル

警告色で自身が有毒動物であることを天敵にアピールし、無用な争いを避ける。

毒とは うまくつきあおう

現在、私たち人間の活動が新たな毒を生み出しています。未来に向け、私たちが地球規模で今考えなくてはならないこと、向き合っていくべきこととは何でしょうか。



終章

毒と人間

狩猟や戦、処刑や暗殺、また毒を研究することにより薬を生み出すなど、私たち人間はこれまで様々な形で毒と付き合い、操ってきました。ここでは人間がどのように毒を利用してきたのか、その歴史をふり返ります。また、科学の進歩による毒の解明、その利用などの研究も紹介します。

毒虫と呼ばれる生物たち



ウシアブ



ネコミ



シエルツェマダニ



ヨコヅナサンガメ



トラフグ

様々な毒のある魚

フグは積極的にフグ毒を食べる!

防御姿勢をとる アカハライモリ

腹面の警告色を見せられている。



有毒爬虫類

超強い! 自分よりも大きな獲物も捕食するコモドオオトカゲ。

アスペルギルス・フラブス

カビはマイコキシトと呼ばれる300種類以上の様々な毒を生産する。



毒の原料となる 鉱物・硫砒鉄鉱

主成分である砒素は、代表的な鉱物由来の毒。かつては暗殺に用いられたことも...!?



毒きのこ、いろいろ

痙攣・腹痛・下痢、幻覚症状、細胞破壊...様々な中毒症状を引き起こす。左からドクツルタケ、カエンタケ、オオワライタケ。



第3章

ムカデミノウミウシ
他の生物の有毒器官(刺胞)を食べて自身の防御に盗用する。



フリッツ・ハーバー(ドイツの化学者)

空気中の窒素からアンモニアを合成する方法の開発に成功し、1918年にノーベル賞受賞。第一次世界大戦時には毒ガスの開発に関わった。